

平成 30 年度第 3 回ピースツーリズム推進懇談会 会議要旨

1 開催日時

平成 30 年 10 月 29 日(月)10 : 00～12 : 05

2 開催場所

広島市役所本庁舎 14 階 第 7 会議室 (広島市中区国泰寺町一丁目 6 番 34 号)

3 出席者

懇談会構成員

団体名・役職	氏名
広島県原爆被害者団体協議会 事務局長	前田 耕一郎
特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima 理事長	渡部 朋子
特定非営利活動法人ひろしまジン大学 代表理事	平尾 順平
被爆体験証言者 (平和記念資料館元館長、元国際平和担当理事)	原田 浩
一般社団法人日本旅行業協会中四国事務局 事務局長	辻 孝和
一般社団法人ひろしま通訳・ガイド協会 会長	古谷 章子
広島市市民局国際平和推進部 部長	津村 浩
広島市経済観光局観光政策部 部長	阪谷 幸春

(計 8 名、欠席なし)

事務局

観光プロモーション担当課長、課長補佐、主査 (計 3 名)

4 議題

- (1) ルート周遊体験調査の実施状況について
- (2) スマートフォン向けコンテンツ制作状況
- (3) リーフレット制作について
- (4) 懇談会で提起された意見や提案への対応について
- (5) その他意見交換

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴人の人数

2 名

7 会議資料名

資料 ピースツーリズム推進懇談会 (平成 30 年度第 3 回)

8 発言の要旨

(原田座長) 久しぶりの会合で、色々な思いをもってご参集いただいたのではないかと。前回までと同様、忌憚ないご意見をいただきたい。これまでの懇談会での意見・提案は全体で約 120 項目あり、大きな事業展開となってきた。まず今年度に何ができるか、来年度の予算編成の時期が近づいてきているので、来年度どのような事業を予算化していけるのか。また、担当部局が事業化できないという項目については、どうしたらできるかというところまで、整理していきたい。委員の皆様からご意見をいただきたい。

◆ルート周遊体験調査の実施状況について

(平尾委員) 広島に来て日が浅い人を対象に調査したとのことだが、やはり、どこかのタイミングで、実際の旅行者に使ってもらってフィードバックをもらう機会がどうしても要るだろう。費用が発生するのであればその費用を捻出したうえで、調査対象者の出身国等に多様性を持たせて、調査した方がよい。資料5ページの走行環境について、しまなみ海道のようなサイクリングロードを作るというのは、道路に描かれている青いラインのことを指していると思う。そのまま実施すると市内がラインだらけになるが、やり方はある。被爆樹木には統一したプレートが付けられているのと同じように、これは被爆建物だというサインを統一させて作るということも分かりやすさに繋がる。

(辻委員) 方向性を求めるには調査件数が少ないとは思いますが、自転車ルートについては、私達も経験したとおり、難しいところがある。一方、エキまちループという新しいバスのルートもできており、公共交通機関をうまく使って安全に平和記念公園以外のところに行っていただくとよい。表示はあった方がよい。もともとボストンのフリーダムトレイルのように路上に導線を描いてはどうかという意見があった。景観の観点からそれは良くないが、下を向いてスマートフォンの画面ばかり見るのではなく、風景を見ていただきたい。適当な場所に適切な表示があり、ゆっくり広島の街を見ていただくということをした方がよい。スマートフォン向けにコンテンツはどんどん掲載していかないといけないが、その利用のされ方をもう少し考えながら進めた方がよい。

(前田委員) それぞれ色々な意見があるが、聞き取りの数がまだ少ないため、もう少したくさんの人から意見を聞く必要がある。これから実際に進めていく中で、今後の対応にも書かれているが、それをフィードバックさせていくやり方をしてほしい。

(渡部委員) 「爆心地は平和公園から近いのでルートにいれた方がよい」という外国人の方からの意見について、確かにそうだと思う。まず爆心地があってそこから被爆建物が生まれたのだということを見ると、「被爆建物のルート」と決めつけてしまわず、柔軟に考え、きちんとルート設定の中に入れたらどうか。島外科の上空 600 メートルで原爆が炸裂したというのは、意外と知られていない情報なので、意図を持ってルート設定したらよいのではないか。

昨日ドイツの女性を案内したが、しっかり見れば見るほど、皆さん精神的にきつくなる。川沿いのルートがよいという意見があったが、新鮮な空気を吸って少し気持ちが軽くなるような、優しい配慮がルート設定の中にあることが、ヒロシマを深く理解していただくためには大事ではないか。

私はスマートフォンをあまり上手に使えないが、よいものができたと感じている。ただやはり、辻委員が言われたように、表示を見ながら歩いて、目的地でスマートフォンを使うというのが一番よいのではないか。街を感じてもらいながら歩いていただく。市内にきちんと表示としてつくるべきものがまだある。平尾委員が被爆樹木の話がされたが、被爆樹木とは何かという表示がない。供木運動については平和大通りにあるが、しかるべき場所に被爆樹木についての表示が何箇所かあって、それぞれの木には標識が付いていますと書かれていると、周って見

る方に対して親切で理解が深まる。

(古谷委員) スマートフォン向けコンテンツを見せていただいた。本当によくできていると思う。今日家に帰ったら、222人のひろしま通訳・ガイド協会会員にメーリングリストでこのようなものができたことを知らせようと思う。

資料にある英語ページのURLにアクセスしたら「Not Found」と表示され、日本語ページから英語ページにアクセスした。英語ページの正しいURLはどこにあるのか。

プロモーションに関して、広島県立美術館で開催している夜神楽に関わっていて、その告知をどうするか色々工夫しているところである。アンケートでどこから情報を得たか聞くと、1番多いのは「宿泊施設でチラシを見た」であり、「広島駅の観光案内所で聞いた」という回答も多い。隣の縮景園に来た人にチラシを配って案内する努力を私達がしており、そこで知った人も多い。これほどよいものができたので、有効に活かしていただきたい。宿泊施設については、一流ホテルからゲストハウス、Airbnb まですべて案内していくのがよいと思う。それから、アンケートで気付いたのは、県の外国人向け観光サイト「Visit Hiroshima」、個人が運営している「Get Hiroshima」、そしてトリップアドバイザーで見たという人が多い。本当によいものができたと思うので、皆に知らせたいと思う。

(津村委員) 平和推進部門も、コンテンツの作成について協力してきている。利用者のご意見・ご要望をフィードバックしていただき、よりよい内容のもの、より分かりやすく伝えられるものにブラッシュアップしていきたいと思う。皆さんがおっしゃるように、表示は課題だと思う。街を歩いていると、スマートフォンを見ながら歩いている方がすごく増えているので、安全面を考慮し、ずっと下を見て歩かないようなやり方を色々な観点から考えられないかと思う。被爆樹木の表示・説明についても、プレートは付いているが、被爆樹木のストーリーが街中では確かに展開していない。昨年度の事業で、被爆建物・被爆樹木の散策ガイドブックを作成し、資料館と公文書館で販売しており、その中では、被爆樹木についての思い入れを専門家に語っていただいた内容を掲載している。そういったものとコンテンツの連携は何か考えていければと思う。

(阪谷委員) 渡部委員が言われたように、被爆建造物のルートとがんじがらめに考えるのではなく、提示したルートは目安であり皆さんに色々なルートを作っていただくという思いでいる。また、どこからでも入ってどこからも出ていただけるような考え方で、引き続きルートを作っていければと思う。平尾委員からあった、外国人旅行者に活用していただいて意見をいただくことはぜひやっていきたいと思う。今日懇談会を開き、我々からの広報に加えて委員やメディアの皆さんから広報していただくことで、おそらく多くの方にルートを回っていただけるのではないかな。そうした中で様々な意見をいただけると期待しており、そこから改善点を抽出して改善策を考える。また、もう一度市民の皆さんも含め、これをどう活用していくのかという視点から、一人一人考えていただくきっかけを作ることができればと思う。ぜひ皆さんのお力添えをいただきたい。

◆スマートフォン向けコンテンツ制作状況について

(平尾委員) プロモーションがすごく気になっている。よいものができたけど誰も知らないでは一番まずいということをこれまでの懇談会でも指摘していた。広島にお越しになる海外の方が

福岡や大阪、京都から来られるのであれば、そのような所のゲストハウスで広島に行けばこのようなものがあると紙やデジタルでしっかり告知するというのがあるだろう。8 ページの表にチラシの配架、WEBによる発信、事業者への発信など記載されているが、一つ一つの項目について、もう少し誰にどういう目的で届けるのかを明らかにしないとイケない。手段とターゲットが乱立した表になっており、この配架によって誰に届けてどういう効果が見込まれるかという表をしっかりと整理すると、抜け落ちているところが明らかになる。例えば、市民と市政は市民を対象としたもので、観光というよりは、このようなことが広島で行われているということの周知であり、県内の方、県外の方、海外の方に対しても、それぞれ広報の目的、起こしてほしい行動は違うはずなので、その整理が要ると思う。

(渡部委員) もう一つ付け加えたいのは、『市民と市政』で広報する時、できました、という紹介ではなく、これを使って皆さん広島案内人になってください、という呼びかけ方が大事ではないかと思う。

ルートができました、巡ってください、という告知だけでなく、皆さんぜひもう 1 泊してください、と呼びかけたい。一生懸命見てくださる方にとって問題なのは、新幹線の時間が来てしまい、時間が足りないことだ。途中で終わってしまって、では次の機会となるのだが、なかなか次の機会は訪れない。ゆっくり巡っていただくために、ぜひもう 1 泊広島に泊まっていたきたいという呼びかけもあわせて広げていければよいと思う。事業者や市民との連携はとても大事なので、早くから仕掛けていったらどうか。公民館のそれぞれの事業でルートを巡って具体的に市に提案しようとか、ルートの案内人になるような講座を考えるなど、市民の力をいただいて積極的な取り組みを展開し、これを広げていければよい。

(辻委員) 広島市は修学旅行を積極的に誘致しており、よい学習教材になると思う。修学旅行に来る前の事前学習に活用してもらおうとよい。市民も入って、次の若い世代に実相を伝える手段としてこれを使っていただく。広報について、何をどのような形で伝えるのがお金がかからず有効か、考えていただきたい。

(原田座長) 昨年度末、市長に対して約 120 項目の意見・提案を提出したが、あそこで終わっていたらこのような議論はない。一つ一つ具体的な形にすることで、広島のおもてなし、平和を発信する事業につながっていく。皆さんのご意見を集約して一歩ずつ進めることが、大きな成果になるのではないかな。

◆リーフレット制作について

(事務局) リーフレットの中身はこれから詰めていくが、長崎さるくの例を示しているように、まずマップがあること、そして簡単な施設の情報が記載されることは必須だと思っている。その他にこのような項目があるとよいなど、ご意見があればいただきたい。

(渡部委員) 広島市の平和運動の歩みのようなことが記載されるとよい。市民が非暴力で非核や平和を訴えてきた歴史というのは、非常に訴える力がある。被爆者自身が海外に行って被爆の実相を伝える努力を積み重ねていったという、広島市民の平和運動の歩みが、きちんとこの中に書き込まれることが大事ではないか。資料館東館 3 階の展示の最後が ICAN についての説明に変わっている。関心を持っている方からは、どんな市民の平和運動があったのか尋ねられる。それをきちんとこういうものを書いて発信する。

長崎さるくのマップを見て感動したのは、「読んでから歩くか、歩いてから読むか」という原爆文学に関する欄だ。切り口がよい。現在の広島と被爆後の広島のギャップにとまどう時には、ぜひ文学を通して深い市民の思いを感じてくださいという配慮は、紙媒体でないとできない配慮だと思う。ぜひ入れていただきたい。

(前田委員) 長崎さるくのマップを見て思ったのは、非常によいものだとは思いますが、どのようにこれを利用していくのかがよく分からない。このようなものを作る時には、何が中にあるかなどの情報があるとよいのではないかと。それはスマートフォン向けコンテンツについても同様である。利用があまり得手ではない私にとっては、これでどのようなことができる、どのように展開するということが分かりやすくなるとよいのではないかと。資料の6ページにあるような、何がこれで行けるといえることが分かるとういと思う。

(平尾委員) これまでの懇談会の中で、長崎さるくを参考にしてはどうかと言ってきた。長崎さるくは12年前から動いている企画で、たくさんの経験値があると思う。この紙だけでは表れていない、なぜこのような形になったのかというプロセスや、どんな取捨選択をしてきたかという背景があると思うので、それを長崎の方に向かおうことができるとういのではないかと。もう一つ、表に出てきていることだが、先ほど渡部委員が言われたここは川沿いが気持ちよいなど、一見するとこれは平和に関する所なのかと思うような所もあるとうい。長崎さるくのマップにはここはトルコライスや洋食ランチが評判だと書かれていたり、コーヒー屋さんの紹介があったりとおもしろい。73年前のことに端を発するツアーではあるが、今の広島の日常とのつながりがあるのがよい。平和のマップを作る時には平和に関することを盛り込みがちだが、このようなことを掲載するのは息抜きとして大事だとういのは、長崎さるくの知恵だとうい。川沿いを歩くと気持ちよいとういような癒し、精神的に負担を感じた方が歩いて休憩できるような場所を掲載するとういのも大事な視点だろう。

(辻委員) 私達が海外旅行に行った時も、歩く時は大きな資料を持たない。マップなども作る側の思いをつめこみがちだが、実際に利用する時はポイント毎の紹介にくわえ、少しおもしろいことがあるとうい。情報はスマートフォンから見ればよく、マップは街歩きのためのものだとうい目的に沿ったものを作る必要がある。長崎さるくのマップは折ってポケットに入れられるようにしている。そのあたりの工夫もしていただきたい。

(阪谷委員) ぜひ皆さんからいただいた意見を活かして、事務局と一緒に作っていきたい。今、修学旅行の誘致に一生懸命取り組んでいるが、広島より長崎が選ばれてきている。長崎の皆さんが、平和に対してどのような思いで長崎を見てほしいか、観光面についてもどのような思いで観光してほしいかとういことが融合されたものの一つが「長崎さるく」だとうい。以前の懇談会で委員の皆さんから意見があったように、長崎の情報もしっかり収集して、そのうえでどのように広島独自のものを作っていくかとういことを大切にしながら、リーフレットを作ることができればとうい。

◆懇談会で提起された意見や提案への対応について

《事務局から資料に基づき説明》

(原田座長) 1年間半かけて色々な議論をしていただいたが、今の説明を聞くと、今後の課題が非

常に多く浮かび上がって来ており、議論を充実させる場が必要ではないかという気持ちを持っている。一つ一つ中身が具体化していくことは、提言した側からすれば心強い。今日は、中間報告しておいた方がよいと思うことがある。昨日、平和記念公園の被爆遺構についての議論があった。市民団体からこのような話が出てきたものだが、これも今回の懇談会の大きなテーマの一つになっているので、後ほど津村委員から話をしていただきたい。私が東日本大震災のことに関わり始めて5年余り経っており、先週も宮城県に行き、来週も岩手県に行くことになっているが、遺構をどのように残すことが必要なのか、ぜひ広島意見を聴きたいというのが発端だった。同じ思いを持つ地域の皆さんと議論を重ねながら、結果的に、被爆遺構をどう残すのかに焦点を当てることになった。資料館内には多くの展示品があるが、それは一つの点でしかなく、それを線にして、さらに面にすることが訴える力を強くすることになる。そのためには、一瞬にして消されてしまった被爆の痕跡が多くの人に目に触れることが必要ではないか。ここに来るまで数年かかったが、やっと今年度から懇談会が立ち上がった。その中で議論が行われているが、このメンバーには学者もおり、なぜそこを発掘しなければならないのかという、原点から議論を始めている。文化財の専門家からすると、発掘することによって劣化が始まるので、基本的には掘らない方がよいということになる。しかし、我々の考えは、発掘して多くの人に見せることによって、ここにはこのような街並みがあったということを伝えることに大きな意義があるということだ。色々な議論を重ねて、有志の市民が団体を立ち上げたのはちょうど1年前だったかと思う。ピースボランティアの皆さんが中心となってこの団体を作り、やっと今年度試掘をしようというところまで来た。昨日懇談会の結果は報道されており、津村委員から、今までの経緯についてご報告していただきたい。被爆遺構は資料館内の展示と表裏一体、それ以上の展示だという思いを皆さん持っている。朝日新聞には、被爆遺構は皆のものだという見出しで記事が書かれている。今朝の中国新聞には、青空将棋の問題から入ったものだが、それも踏まえたうえで市民も旅行者も憩える緑地公園になればよいのではないかと、つまり私どもが提案したような市民と来訪者の意見交換の場をそのようなところに作ればどうかという投稿が掲載されている。

(平尾委員) 最初の頃、議論になっていたかと思うが、ピースツーリズム推進懇談会としてやっているのであって、ピースルート策定委員会ではないので、イズムを作ることが大事だろうと思う。改めて、73年経ってイズムをしっかりと作っていくということがこの懇談会の大事な点だと思う。入口としてのルートは大事だが、このルートから旅行者と市民が語らう場が生まれ、折り鶴のワークショップが体験できる店が生まれ、ここで紹介されたりなど、背骨として作った今回のルートから派生する、ルートを歩くだけではない、色々なコンテンツが生まれていくだろうし、育てていかなければいけない。それは行政にやってくださいではなく、私達のような市民団体や民間企業がタイアップして、この背骨に肉付けしていくということが大事なプロセスであり、それを今後継続してやっていく必要があるのではないかと。どう皆さんが活用するか、どう私達が活かしていくかということを検討し続けていくために、ピースツーリズム活用委員会のようなものが、今後ずっと継続して必要なのではないかと。その中で、当事者、自分事としてとらえる人を増やしていくということが、プロセスに多くの人に関わる意味でも大事である。イズムということを見ると、サイトに出てくるコンセプトはあっさりしているので、もう少しこのような思いでこのサイトを作ったということが分かるようにしてもよいの

ではないか。もう一点、細かい点だが、古谷委員から、このようなものを知ってもらうには、トリップアドバイザーのようなものを使うとよいのではないかという話があった。トリップアドバイザーでは、星の数で評価が付けられ、コメントも掲載される。フィードバックをしっかりと活かしていく、利用者の声を聞きながら改善のプロセスを進めていく流れが必要だと思う。行政にとっては耳の痛い意見も出てきたりと、大変だとは思いますが、口コミの結果も考えながら、ここはもっとこうしよう、この部分のコンテンツを増やそうなどと対応していくことも、生きたものとし続けるために、フィードバックを受ける体制を作っていけたらよいと思う。

(辻委員) 以前の懇談会の議論において、市民が参画して県外、海外から来る方をもてなし、実相を伝えるという話があったかと思う。例えば市報などの広報紙に毎号ピースツーリズムのコーナーがあれば、市民にも注目していただき、この「イズム」を広げることができると思う。行政がこのような懇談会を設置すると、形式的に報告書だけが残るというケースとなりがちだが、スマートフォン向けのコンテンツ制作に加え、さらに市民の動きを作るための広報活動もやっていくのがよい。時間はかかるが、広島市が継続してやるべきことだと思う。住民に、自分達の地区にある被爆建物等を遺産として自身で伝えていかなければならない、活用していかなければならないというような思いが生まれ、伝え続けて行くようになればよいと思う。

(前田委員) ピースツーリズムの具体的な展開については、当面は試用期間だと思う。完成形としてスタートしたにしても、これを見た人、使った人から色々な意見が出てくる。それをフィードバックして、よりよいものにしていくのがよいのではないか。その展開の中で、根本にあるのは、広島を理解してもらうということだと思う。ピースに根っこは置くにしても、被爆都市広島ということだけでなく、色々なことを含めて広島を理解してもらうことが大事である。被爆に関するだけでなく、ほっとするような所が必要だという意見があったように、平和という概念には、マイナスの面だけでなく、楽しいことも平和に通ずるものであると思う。一番最初に、芸北の自然や島しょ部の自然もあると言ったが、今はそこは入ってなくてもよいが、そのようなどころも入っていた方がいいねという声があったら、そこも含めて展開の中に入れていくなど、よりブラッシュアップされていくものであってほしい。

あと、具体的なことだが、今日配付されているチラシは、たくさん印刷済みなのか。

(事務局) 2万部印刷している。

(前田委員) 最初はチラシは必要だと思うが、今後の展開としては、色々な既存のパンフレットがあり、またピースツーリズムのリーフレットを作るので、それらにQRコードを入れていけばよいと思う。プロモーション案として色々なところにチラシを配架するとあるが、既存のものに掲載していけばよいと思う。

コンテンツに色々なスポットが掲載されているが、自分でいくつか適当に選ぶと、ルートが自動生成されるようなものはできるのか。例えば、グーグルマップで行きたいところを選ぶとルートが生成されるような感じで、設定されている既存のルートのほかに、選んだ場所をうまく回るようなルート設定できないか。

資料10ページに、平和事業と文化事業を一過性のもので終わらせないと書かれているのには、強い気持ちがあるのだろうが、そこまで書かなくてもよいのではないか。13ページの「連携可能な団体等と意見交換を行い、コンテンツに盛り込む等の取組を行う」という部分については、もっと広い概念で、例えば、「連携可能な団体等と意見交換を行って関連した

事業を展開してもらい、コンテンツに盛り込む等連携して取り組む」といったもう少し広いフィードバックでもよいのではないか。14 ページの 4 (2) について、「拠点施設などにおける」を削除し、「来訪者の滞在時間の延長を図るため、ヒロシマの芸術・文化に触れる事業についての情報を提供する」でもよいのではないか。

(渡部委員) 今から本当に始まるのだと思う。この懇談会は、ルートだけでなく、大きな観点からこれからの広島を創っていく会だと思っているので、できるだけ市民の皆さんや事業者の皆さんなど、色々な方のご意見を柔軟に取り入れる形を残しておいて、継続していくことが必ず大事である。継続するということには本当に力がある。行政の場合、担当の方の部署の異動などのかねあいから、2～3年で途切れてしまうことが多いので、継続させていく仕組みを今のうちから仕込んでおくことが大事である。平和への思いを共有するだけでなく、共有した人達が動いていき、横のつながりをつくる、或いは双方向にアクションを起こしていけるような、ダイナミックな受け皿を目指しながら、丁寧に小さなことから一つずつ継続して取り組むことが大事だと感じている。

平和と文化の一体的な推進による広島の発信について、これからの広島を考える時、様々なアートと広島の発信は深く結びつくと思う。現代美術館やヒロシマ賞もあるのだが、残念ながら、国内外の人達が広島でアート発信をしたいという時に、最初に相談に行ける所がない。右往左往されるアーティストの方をこれまで見てきた。お金の問題だけでなく、どのような可能性があって、どのような難しさがあり、これについてはここに相談すればよいといった情報を得ることができる窓口の必要性を感じる。アート作品を展示したい、広島で創りたい人達向けの最初の幅の広い窓口を設置し、それをPRすることで、多くのアーティストが利用するのではないか。映画についてだけ、フィルムコミッションがある。

広島国際アニメーションフェスティバルに関しては、素晴らしいアニメーション作品が誕生し、ヒロシマ賞を受賞されているが、著作権の問題で、市民が平和活動に使うことができず、平和教育の素材にならない。もったいないことだと思う。これが使えるようになると、発信力は大きい。これについては、長年お願いをしてきたが、なかなか難しいようだ。せめて、ヒロシマ賞受賞作品だけは、広島市が著作権を買って、作者の方のお名前も広くお知らせするという条件の下に、市民の様々な平和活動に使えるものになると、まさに平和と文化を一体的に発信する力になる。

今回、資料館、現代美術館、広島城の3館共通入場券ができることは、非常によいことだと思っている。広島城に上がると、広島はデルタだったんだ、侍の時代があったんだといったことが自然に理解できるような仕掛けがあり、また天守閣のロケーションが非常によい。広島城のてっぺんに立つと歴史を感じ、広さを感じる。若い方向けにはコスプレができる場所もあり楽しい。残念ながら食べ物は無いが、そういうところがセットに入っているというのがよいと思う。滞在時間も長くなる。普段より時間の余裕を持ってお越しくださいというメッセージを出し続けていただければ活用できるのではないかと思う。

(原田座長) 前田委員から「一過性」という表現について発言があったが、懇談会メンバーに文化関係の職員はいないので、少し補足させていただきたい。平和大通りにバナーを設置したり、本通商店街に現代美術館の催し物についての大きな懸垂幕を掲げたりしているが、果たしてそれがどの程度皆さんに周知されているか、出したことでおしまいになっているのではないか、

という気持ちを常に持っている。せっかくヒロシマ賞というよいものがありながら、5～6千人程度しか来場していない。今も、丸木位里・俊の特別展を開催しているが、おそらく来場者は多くないのではないか。ただやればよいということではなく、どのようにしたら多くの人をお迎えできるのか、思いを共有することができるのかというところに焦点を当てるのが今回のピースツーリズムの大きな課題だろうと思う。事務局が「一過性のものとして終わらせないよう」と書いているのは、おそらくそこも踏まえたいうえで、イベントに終わってしまっただけではいけないという思いを持ってそうしたのだらうと思う。

(古谷委員) 被爆遺構について、辛口な意見を言うと、それほどの力、お金を注ぐほどのことなのかと思う。資料館の本館地下を発掘して色々なものが出てきたということだが、被爆 70 周年の時に資料館が閉館され、スカウトジャンボリーで世界各国の若者が来た時に入ることができず本当に残念だった。発掘されたものをどのように展示するのか。今、東館に少し置かれているが、それほどパワフルなメッセージを発信するものだろうかと思っている。長崎にもあるが、あまりインパクトがない気がする。さらに天神町を発掘するという話も進んでいるので、きちんと結果を展示してパワフルなメッセージが出るようなことであればよいが、それがなかったらいかげんなものかと思う。被爆 70 周年の時に本館がオープンされていなかったことは、本当に情けない、恥ずかしいことだと思う。どうして 10 年、20 年先の広島メッセージということを考えなかったのか、その時の腹立ち、怒りがずっと根に残っている。リニューアルオープンがどんどん先延ばしにされて、ガイドとしてお客様を案内する時に東館だけを窮屈な感じで案内しており、とても残念である。ガイドの仕事をはじめ今年で 40 年になるが、最初の頃の資料館のメッセージには力強さがあった。以前来られた方がまたリピーターとして来られた時に、全然だめだという声があり、それを聞くのがとても残念である。きちんと早くリニューアルオープンしていただき、そこでこれだけ待った発掘調査の結果がなるほどということだったのかと分かるようにしてほしいというのが切なる思いである。

最近、ニュージーランドからのお客様が多い。来年ラグビーのワールドカップが日本で開かれるが、今年の 7 月にニュージーランド人で IOC の重鎮の方がお見えになり、ご案内した。ついこの間も、来年 20 人くらい企業の関係でニュージーランドから広島に来るので、実業家の方が下見に来られたのでご案内した。確実に 2019 年、2020 年に広島に来られることが分かっている人達に、すばらしいスマートフォン向けコンテンツがあるということを知らせることができると思う。オリンピック・パラリンピックの関係で日本に来られることが分かっている組織などに今回やっていることの情報を前広に伝える努力ができればよいと思う。

(津村委員) 旧中島地区の遺構の現状について、原田座長から動きについてお話しいただいたが、一部補足すると、市民団体のご要望に後押しされたという面もあるが、市としても、被爆者が高齢化し、ご自身から被爆体験を聞くことができる被爆者の方が少なくなってきている中で、被爆体験の継承は目の前の大きな課題だということ強く認識している。被爆建物・樹木の保存・継承、伝承者の養成・活用と、色々な形・方法・ツールで後世に伝える努力をしていかなければならない、という思いが根っこにある。資料館本館の免震工事の折に地下から遺構が見つかったが、公園内を掘ればいたるところでそういったものが出てくる。それをありのまま、その場で見ていただくことによって、来訪者の中にはここが元から公園だったと誤解している人が結構いるという声を聞くので、ここは元から公園だったのではなく、市の中心的な繁華街

であり、多くの商店や民家が密集していた4,400人の人口があった街だったということ、それが一発の原子爆弾によって破壊されてしまったということ、失ったものの大きさ、凄惨さ、非人道性を直接感じていただける展示ができないかという発想で、検討を始めた。懇談会は今年7月に有識者と市民団体の方をメンバーとして立ち上げた。なぜ専門家の方が必要かということ、公園自体が文化財保護法に規定された名勝という文化財に指定されており、基本的には手を加える、変更するということはできないものであるところを、なぜそれをしないといけないかという意義付けが必要なためである。座長が言われたように、掘ったら即劣化が始まるということは、私も懇談会を開催してから初めて聞いたが、さらに言うと、専門家の方は掘ること＝破壊だということまで言われる。その中で、今展示を見ていただかないと、50年後、100年後になってから見ていただいても意味がない、核兵器廃絶の思いを広げるためには今やらないといけない、公園で旧中島地区の遺構を展示整備するということが公園の価値を高めるためにも必要なんだということに賛同していただいて、進めようということになった。現状は、試掘場所について、名勝の規制が非常に厳しいため、必要最小限でないと認められず、1箇所にとりこむ必要があったことから、市民団体の意見もお聞きし、ここが一番よいのではないかという場所を先日市から懇談会に提案して承認していただいた。資料館東館と国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の間の緑地帯の中央部で、旧天神町筋という天神町の縦の通りがあった場所で、その西側は一般の民家が密集しており、東側は医院や大きな旅館が立地していたところである。文化庁と協議して試掘の許可をいただき、年内には試掘に入りたい。来年度早々には、展示規模や方法、古谷委員が言われたどのようなメッセージ性やインパクトが出せるかという、整備の方針を検討していきたい。その前提として、掘ったところに展示に適する遺構、遺物が出てこないといけないし、それが何であったか特定できないと説明できない。ハードルがいくつもあつた。それらをクリアできるとして、来年度展示整備方針、そして展示場所の実際の発掘調査、展示企画を行い、設計・工事に入り、2020年度のどこかで展示を開始したい。一つ一つハードルを越えながら進めていきたい。

古谷委員の言われた資料館リニューアルオープンについて、70周年に間に合わなかった経緯は私自身よく承知していないが、免震工事は非常に時間のかかるもので、言い訳になるかもしれないが、展示整備計画を作った時点で70周年は超えるということだったのではないかと。ただ、その計画から1年ちょっとまた延びたということについては申し訳ないところがある。工事を始めて、壁を剥がしたりしてみても、コンクリートの劣化が思っていたより進んでいたことや、建築基準法の改定への対応などがあり、工事所管課も非常にながらばってきており、延びるのは延びるが、昨年12月に発表したとおり、来年春のリニューアルオープンを目指して一生懸命作業を進めている。必ず来春にはリニューアルオープンできるよう努力している。

(古谷委員) ぜひお願いしたい。修学旅行生が多かったりして、本当に窮屈で案内しにくい状態にある。

(阪谷委員) 懇談会で提起された意見・提案への対応について事務局の補足をすると、皆様から120項目にわたるたくさんのご意見を、関係する部局に一旦渡してそれぞれの意見に対する回答をいただく中で、決して投げっぱなしではなく、事務局がきちんと所管部署に行きついでヒアリングをし、意見の意図が間違っていないか、回答の方向性があっているかを確認しながら、今回は主な意見を出させていただいている。いただいたご意見の核心部分は所管部局も

十分に理解できているという印象を受けている。既に実施しているという回答がいくつもあるが、ただ実施してはいるものの効果をどう出現させていくか。効果が出現できていないものについては、行政だけでなく、関係者、市民も一緒になって考えていなければならないのではないかと思う。先ほど評価を恐れずに利用者の声を聞くべきとの意見があったが、観光政策部として、評価を恐れずどんどんやっっていかなければいけないと思っている。

説明板の充実についてのご意見があったが、来年度の予算要求において、いくつかの施設の説明板を新設・拡充してはどうかと、国際平和推進部や他の部局と調整している。今から各局の中で局長の査定を受け、その後財政課へ予算要求を提出して財政局においても査定があるので、まだ決まったわけではないが、委員の皆さんからいただいたご意見を踏まえた予算措置に関係部局と取り組んでいるので、来年2月に次回懇談会を開催する時に、予算措置の状況についてきちんと報告したい。前田委員が言われた、平和を根っこに置いて、被爆都市広島ということだけでなく、色々なことを含めて広島を理解してもらおうというご意見について、我々も戦前からの広島の歴史、自然、文化など広島の魅力を伝えていくということが、ピースツーリズムの中に入るべきであり、そして広島に来ていただいたらこれがまさに平和なんだと実感していただける街にしていきたいという思いを持っている。渡部委員の言われたアートを発信したいというときに総合的な窓口がないということについて、フィルムコミッションであればあらゆる調整を行うが、アートの発信に関しては縦割りになっていて、最初どこかに相談に行っても、これは公園の管理者のところに行ってください、これは警察に行ってくださいといった形で、なぜ行政は一元的に対応してくれないのかと苦情をいただいていることを聞いている。仕方ない面もあるが、もう少し行政の職員も、非常によい事業だから一緒に所管課に行って話をしましょうという、もう一步踏み出した対応をすべきであると反省している。古谷委員が言われたように、ぜひ諸外国から来られた人に情報発信していきたい。

資料13 ページの「3 市民・民間等との協働体制の構築」と、次のページの「4 拠点施設の確保など」については、まだ懇談会の中で十分な議論ができておらず、その前段に至るまでのことを昨年度と今年度にやっってきているので、この二点を今後懇談会でどう展開していくかを考えていくことが課題であり、これがうまくいけば、次の「5 今後の事業推進のための関係機関との調整・チェック機能の構築」というところへ結びつけることができているので、特に3と4についてまた皆さんから様々なご意見をいただきたい。その中で、平尾委員が言われたイズムの追求ということが全市民レベルでできるようになるのではないか。

(原田座長) 色々な意見をいただいた。これを今後事務局において具体的な事業展開にするための仕組作りに尽力していただくことになる。

◆その他意見交換

(平尾委員) 渡部委員がこれがスタートだと言われたが、そのとおりでと思う。色々な意見があり拡散してきたものが、一旦収束するように見えるが、これを拠点に新しい拡散が始まるのだと思う。一本横軸を入れるためのこの懇談会の場が継続的、長期的に繋がっていくことが、しっかりとしたピースツーリズムを作っていくことになるのだと思う。

(辻委員) 外部の人から見た時のことを考えて、客観的に継続して情報発信していくということをやっていかないと、やればやるほど主観に陥るところがあるので注意が必要である。こちら

の思い上がりではなく、市民と一緒にどう考えていくかというところまで含んでいくと、よりよくなっていくのではないか。

(前田委員) 15 ページの「5 今後の事業推進のための関係機関との調整・チェック機能の構築」は、非常に大きなことで、これが実現すると本当によいと思う。組織ができるかどうかという問題はあるだろうが、そのような機能は必要だと思うので、ぜひ推し進めていただければと思う。10 ページの「平和事業と文化事業を一過性のものとして終わらせない」という視点が入ることはとてもよいと思っており、一体的な展開を引き続き図っていくという視点を持つことが大事だと思う。

(渡部委員) 被爆遺構について、平和公園は文化財だが、平和公園の外は文化財ではない。旧広島市内は被爆遺構そのものなので、柔軟な発想があってもよいのではないか。平和公園内に限定しないという考え方もあるのではないか。文化財となると本当に制約が多い。私が衝撃を受けたのはあの真っ黒な土である。行き詰まったときには、少し違う視点で見ると違う道が開けるかもしれない。

ラグビーワールドカップの話があったが、オリンピックもある。その時に、この情報が組織委員会に入っているとよい。そのくらいのスケールの大きさが要るのではないかと感じている。多くの人に色々な形で広島にお越しいただける、大きな鍵になる気がする。

(古谷委員) 7 月にご案内した方は、広島駅までお送りした際に、今晚は室伏広治ご夫妻と箱根の旅館に泊まる、あさっては東京オリンピック・パラリンピック組織委員会会長 森喜朗さんと話をすると言っていた。メールを送り、このサイトのことを知らせたいと思う。

通訳案内士は広島に 222 名いるが、地域通訳案内士という制度を広島県が導入し、今年 110 名くらい応募されており、その選考試験の審査員をする。最初はいかがなものかと思っていたが、それも違うかなと思っている。以前英語の教師をしていた時に、海外から訪れた人達に教え子達が英語で説明できるようになったらいいな、あるいは日本語で広島はこんな街ですと皆穏やかな笑顔で言えるようになったらいいなと思っていた。今日のスマートフォン向けコンテンツはそれが可能になるきっかけという意味でとても大きなことだと思うので、このようなものがあるということ、いかに上手に、ニコニコ顔で浸透させるかが大事だと思う。まず、今晚 222 名の会員に伝え、知り合いにも伝えてくださいと言おうと思う。

(津村委員) 今日もいくつかキーワードをリマインドしていただいた。スマートフォンのコンテンツをどのように活用していくか、市民の皆さんにどう受け止められるかということ把握しながら、継続して育てていくということが大事であり、平和推進部門としても観光政策部と協力して二人三脚で進めていきたい。

(阪谷委員) 資料 16 ページのとおり前回の懇談会以降に意見・提案を 3 点いただいている。2 つ目の修学旅行生が昼食を食べられるスペースが充分にないということは、以前から多くの方に指摘されている。今、レストハウスの改修工事を進めており、2020 年の 7 月くらいにはオープンしたいと思っているが、2 階に 100 席くらい入るスペースを設けて修学旅行生の皆さんに食べていただいたり休んでいただいたりできる場所を設けたいと考えている。これを議会に説明したところ、資料館の中や国際会議場でも昼食を食べられるスペースがあるがレストハウスでも食べられるようになったときには、それら複数の施設をうまく活用できるオペレーションを、観光部門、平和部門、その他関係部門が一緒になって考えて欲しいという意見があり、今

後、考えていかないといけない。また、これだけでは足りないので、昨年度、民間の貸し会議室を運営している事業者を訪ね、修学旅行生が、被爆体験証言者の講話を聞くことができ、弁当を食べることも休憩もできるということを安価にできないかという話をして、ご了解いただき、今、修学旅行誘致担当が全国を回るときにこのようなこともできるとご案内している。もう一点、ここが頭が痛いのだが、被爆 80 周年には修学旅行生を今の水準に 3 万人プラスして 35 万人にしたいが、そうすると団体のバスがたくさん来る。広島市のバス駐車場は、広島駅新幹線口、マツダスタジアム横、平和記念公園、旧市民球場跡地、広島城三の丸の五つがある。広島駅新幹線口はバス協会が運営しており、ここではきちんとシステムを組んで、あらかじめいつが空いているか分かり申込ができるので、非常にスムーズである。それを他の駐車場でもできないかと考えて調整しているが、複数の関係部局がありハードルが高くうまくいっておらず悩ましいのだが、観光地として、平和を皆さんに学んでいただける場所として、観光バスの問題は非常に重要だと思っているので、引き続き、庁内の協力が得られるように力を尽くさなければいけないと思っている。

(原田座長) 今日非常に盛りだくさんの意見をいただき、お礼申し上げたい。次の懇談会は少し先になるが、今年度事業としてできるものの整理、そして来年度の予算としてどのようなものが反映されていくことになるのか、その他残ったものをどう処理していくのかということ概要的に整理していただいたうえで、皆さんにもお見せしたい。確かに、拠点施設の確保も、市民やその他の企業等との協働体制の構築も大きな課題として残っているので、これも次の懇談会で皆さんのご意見をいただきながら次につなげていくことができればと思う。